

【KBS京都賞】

「アレルギーへの理解」

舞鶴市立白糸中学校 3年

朝倉 壮哉



みなさんは、「エピペン」とは何か知っていますか。色鉛筆の種類だと思える人もいるのではないのでしょうか。エピペンとは、食物アレルギーの症状が重症になったときに使う注射器のことです。僕は、このエピペンを小学校4年生の時から肌身離さず、どこに行く時も持つことになりました。

僕は、小さいころからアレルギーを持っています。その食品は、卵です。卵はもちろん卵の入っている食品やお菓子も食べることができません。もし、間違っって口にすると繰り返す吐き続ける症状やのどや胸が締め付けられる症状になり、エピペンを打たなくてはなりません。だからこそ僕は、何を食べたりするにも内容表示を細かくチェックする必要があります。しかし、中には、内容のはっきりしない商品や明らかに怪しいのに入っていない商品があります。実際に卵は入っていないと書いてあった商品を食べ、病院へ行ったことがありました。

このように、世間はまだまだアレルギーに対する配慮や意識は低いように感じています。有名なチェーン店やアレルギーに理解のある一部のお店は成分表示ができるようになりました。しかし、家族で食事をしたり、友達と食事をするときには不便に感じる人が多いです。

また、当たり前のことではあるけれど、食べてみたい物を食べられないという辛さもあります。そのうえ、はしや食器がきれいに洗われていないと間接的に卵を体内に摂取してしまうので、食事への怖さがいつもあります。

僕は、生まれてから卵を一度も食べたことがありません。母のお弁当にも卵は入っていないし、学校の給食も卵は除去されています。そんな僕のアレルギーを周りの友達には知っています。この前の修学旅行での夕食の時、友達の一人が一つのデザートに「おいしいから食べてみて」とおすすめしてくれました。しかし、そのデザートには、卵が含まれていたため、僕はアレルギーで食べられないことを伝えました。すると、その友達は本当に申し訳なさそうに何度も謝っていて、その姿を見て僕もみんなと同じ味、感想を共有できない辛さ、わざわざ教えてくれた友達を謝らせてしまうことに、とても申し訳なさを感じ、アレルギーさえなければと強く思いました。今まで何回も辛い思いをしてきたけれど、食物アレルギーの不自由さは周りのサポートのおかげで軽減されるのです。

しかし、アレルギーをまだ理解していない人からは、「治せばいいじゃないか。」という人がいます。残念ながら、まだアレルギーには、病気のように治すための薬やすぐに治療できる方法はありません。本当に治そうと思えば、アレルギー反応のある食品を食べ、耐性をつけるという方法が唯一あるだけです。僕の場合で言えば、卵を食べると繰り返す吐き続けたり、喉が締め付けられる症状と戦い、そしてまた卵を食べることになります。それは、とても辛く、苦しいので、中々その方法にふみきることができません。

アレルギーはがんや病気と違って、食事にさえ気をつかえば普通の生活を送ることができます。その食事一つだけで食べたいものをがまんしたり、心無い冗談に耐えなければいけない時もあります。商品を作ったり売ったりする側の配慮だけで、アレルギーを持つ人は、安心して食事をすることができます。たくさんの人たちにアレルギーに対する知識や理解、意識の高い世の中になってほしいと思います。そして、いつの日かすべての人が笑って食事できる世の中になることを願います。